

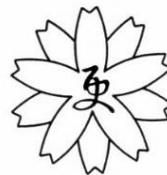
掛川地区

更女会だより

第100号 更女会だより

大東支部担当

令和3年2月発行



目次

P1 令和3年・新年を迎えて

(会長 小澤 悦子)

寄稿してくださった皆様

※順不同、敬称略

P2

【卒業生のみなさん】

宮川れい・鈴木敏子

P3～

【掛川支部】

戸塚久美子・中山富美江・齋藤昌子・永田謡子
梅津純子・平出芳江・和田とし子・田邊もとい
堀内広江・八重樫隆子・仲川幸代・落合満江
塩澤歌子

P10～

【大須賀支部】

中山キクエ・山口友美恵・鈴木幸子・木下艶子
田中紀美枝・森川美沙子・鶴田享子・内藤とみ江
深谷由美子・進士久恵・平松よしの・立石佐江子
林 知余・大石幸恵

P16～

【大東支部】

熊切信子・安藤明美・渥美敏子・雑賀雅子
栗田光江・宇田春子・栗田登子・野元輝子
近藤正子・鳥井鈴江・宇田直恵・鈴木あい
高塚志のぶ・五島和枝・鈴木あけみ・大東一会員
末永たえ子・鈴木せつ子・高塚さとみ・鷲山千恵子
野中晴美・明石ふさ子・赤堀房江・佐藤穎子
太田まつゑ・鈴木きみえ・大橋充子・藤田美知子
水野可よ子

『令和3年・新年を迎えて』

会長 小澤 悦子

令和3年が始まりました。本年もよろしくお願いたします。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、私達の生活や経済が大きな影響を受けました。更女の活動も多くが中止となり、自粛の1年となりました。新規加入会員が、11名仲間入りしていただきましたが、視察も勉強会もなく申し訳なく思います。

明るい話題として、今回更女会だよりが100号を迎えました。諸先輩方の積み重ねの賜です。前回のコロナ特集に続いて、多くの会員が協力してくださり、見応えある100号となりました。会を退いた大先輩からもお寄せいただき、ありがとうございました。相変わらずのステイホームでおうち時間がたっぷりありそうです。じっくりお読みください。

もう一つ、うれしい報告です。一元玉募金が16,151円集まりました。総会が会員参加で開催できなかったにも関わらず、昨年度より多く、この程、社会福祉協議会にお届けいたしました。こちらも感謝です。ご協力ありがとうございました。

更女会の活動は、研修や視察だけではありません。今だからこそできる活動を探さなければいけませんね。布マスクを作ったり、寄付する雑巾を縫ったり。私のように裁縫が苦手でも、白いタオルを集めるだけでも活動のひとつだと思います。コロナで事業計画通りできませんでしたが、3月で役員が改選となります。中途半端でバトンタッチする事をお許してください。令和3年度の飛躍をお祈りし、新年のごあいさつとさせていただきます。



掛川市役所福祉課

掛川市長谷 1-1-1

TEL:21-1140 FAX:21-1163

掛川地区更生保護女性会

<http://kakegawa-koujyo.com/>

会長 小澤 悦子 TEL:23-0836

『思い出を綴って』

掛川支部卒業生 宮川 れい

更女会だより 100号おめでとうございます。

昭和50年10月保護司を拝命し即更生保護婦人会の会員になりました。何も分からず先輩の方々よりいろいろ教えて頂き、少しずつ分る様になって来ました。又、近くの市、町の更婦との合同研修にも参加させて頂き勉強になりました。

昭和55年4月10日、東京より全国更婦連盟会長の島津久子様、静岡より県の会長の三田ユミ様とお二人が掛川駅へ降りられて、二俣線で森町の小学校の講演会へ。掛川からも更婦会員が大勢乗られその中の一人に私も加えて頂きました。島津様が気品あるお顔立ちのお方で今でも目に浮かんで来ます。

翌年の昭和56年2月静岡刑務所よりユカタ地が沢山送られて来ました。役員で仕立てる事になり一反頂いて来て一生懸命仕立てて後日段ボール箱に皆で入れて送り返しました。夏の盆おどりに受刑者が着ておどった事でしょう。

毎年保護司会と更婦合同で刑務所、少年院等の研修慰問に10月頃出掛けていました。東は群馬県の榛名女子学園、千葉の市原刑務所、府中刑務所、北は長野県の有明高原寮、金沢、福井の両刑務所

『思うこと』

掛川支部卒業生 鈴木 敏子

“微笑みをかけたぶんだけ子の笑顔”と言う標語を見る度に、何とすばらしい心がほっこりする標語だと感心する。

“ほほえみ”暖かさがにじみ出る愛の表現だ。

今春、筍堀りで怪我をした私はリハビリに通院中だが、医院の待合室では心がほっこりする親子を度々みる。

ヨボヨボの老人を介護する家族、幼児を連れておかあさん達、みんな心が美しいなあと感心の連続である。

15年程前、石川ツヤさんと更女の代表で静岡の少年院へ伺ったことがあった。当日は“僕の反省”という発表会だった。体育館いっぱい少年達にびっくりした。卒院前の10人の反省発表は、おか

等30か所以上廻った様に思います。木工場、マシン掛、皮ぐつ、皮かばん作り等、刑務所内の作業をしている所を静かに見学して廻りましたが皆一生懸命に作業をしていて、悪い事をした人の様には見えませんでした。千葉の市原刑務所には、交通事故を起こした人達が入っていると聞きました。みそ、醤油、その他いろいろ作っている様です。お醤油を買って来た思い出が有ります。又、どこの刑務所でしたか、帰る時玄関のテーブルに便箋がいろいろ置いて有って買って来ました。まだ、私の文箱にはその便箋ののこりが入っています。如何に筆無精かが分かります。

更生保護女性会を退いて16年になります。私の人生の内30年近くで一番長いお付き合いでした。大正生まれの私に今だにお便りを下さったりお電話を下さる方が数名居ります。有難く感謝して居ります。



あさんごめんなさいの言葉の連続だった。社会に出たら心を強くしますと言う言葉も多かった。

彼等の発表を聞いて、家庭の暖かさが無かったのを感じたのだった。

石川ツヤさんが講評で「しっかり反省していて本当にうれしかった。世間の荒波にまけないで。いっしょうけんめい生きていきましょう。」と力づけた。私も“今日の反省発表を聞いて、安心しました。よい大人に、そしてよい父親になって下さい。”とはげましたのだった。

今頃は微笑みのある家庭で、暖かく暮らしていて欲しいと願いながら、この文を書いている。

又、“故石川ツヤさんをしのびつつ”

冠講座について、企画した当時の趣旨が会員各位に伝わるように100号記念に執筆されたら如何かと、小澤会長のご提案に感謝し、事業創設の黎明期から県連盟にも採用された経過を振り返ります。

今では「掛川地区更生保護女性会プレゼンツ〇〇講座」と言った方が伝わりやすいでしょうか、高校生へ提供する更生の冠講座は、平成25年5月22日の理事会で企画提案し、理事各位のご理解で事業化が決定されました。当時の理事会メンバーの多様性に富んだご判断があったからこそその賜物です。

この企画の背景には、女子学生が出産した新生児の命を奪う事件等が続いたことや、保護者から虐待を受けて児童養護施設で生活する児童の現実を視察し、「命の尊さと家庭の大事さ」を社会へ巣立つ前の高校生に伝えたいという思いがありました。そしてその手段として講座経費を提供する冠講座方式を採用したものです。

命を粗末にすることは犯罪です。犯罪を未然に防ぐことや、繰り返さないために啓発活動を展開することは更生女性会の使命でもあります。また更生女性会員と高校生が共に、同じ場所で同じ時間そして同じ講座を共有し学ぶことは、更生女性会を可視化し更生保護の考え方も若人に伝わるのではないかと考えました。

企画の事業化は、順調に進んだわけではありませんでした。①高等学校へのアプローチは、市の教育委員会→校長会→高校校長→担当教諭という順を踏まざるを得なかったことや、②教諭の反応が意外なものだったこと等。特に今となっては笑い話のようですが、教諭から「更生を厚生と勘違いしました」と言われ、「更生保護という言葉が重すぎて違和感があり、また更生保護が必要な生徒が本校に在籍すると憶測され、イメージダウンにつながって受験生が減る恐れも、」という言葉にも接した時には驚きました。地域社会でこれ程までに更生保護女性会の存在が知られていないし、それどころか更生保護の考え方自体が浸透されていないと感じました。

半年後高校のご協力を頂き、様々な準備が整って、第一回目の冠講座は25年12月県立掛川東高校で開催され、約700人の生徒・教職員が受講されました。学校が望まれた講師は長田治義氏（故人）で、講座は「産んでくれてありがとう」。生まれてくる奇跡と命の大切さを語りかけてくれました。次年度には県立横須賀高校の全校生徒と教職員、保護者も参加され約500人。大須賀公民館で同じく長田氏の講演でした。私達も2校とも同席し受講できました。感想文も多数ご提出頂いて、事業の有効性を確認しました。その後も年度に1校ずつ、市内の4つの県立高校に順番に冠講座を提供して、継続事業に位置付けられています。私達の活動リーフレットが一遍に500~700枚も配布できて、更生女性会からの提供講座だという紹介までアナウンス頂いて更生保護という言葉が高校生に視聴覚で確認してもらえることは大きな啓発でしょう。

その後、この活動は、県の更生保護女性連盟の知るところとなり、私は会長の堀先生に依頼され、県理事会にて冠講座の概要説明を致しました。

平成27年3月の事。その後県教育委員会へ協力依頼を取り付けるための活動として、県教育長面談にも協力し私も当日同席致しました。このようなプロセスと、堀会長と連盟理事会のご奮闘で、県内全域で冠講座が行われています。今では県内の高校から進んで提供願いがあがるようでも更生保護の受留められ方も変化していることが分かります。

終わりに、私個人の希望を申せば、この頃は学校が講師を選考される時に、インターネット上に潜む危険性を多く取り上げる学校が増えています。それも犯罪予防講座ではありますが、当方の考え方もお伝えして、多様な講座、命と向き合えるような講座を提供してほしいと願っています。そして益々、更生女性会が冠講座を活用して青少年育成の啓発が深まり、人々に更生保護の大切さが認知されることを期待しています。

原稿を依頼されたけれども、さて何から書いたら良いのか、とまどうばかりです。あまりにも長く携わってきたので思いが千々に乱れまとまりません。

私は更生保護女性会（先には婦人会、更婦）に40年以上も前に出会い入会し活動してきました。

少年の家に食事作りに度々足をはこび、どんな食事が喜ばれるのかと献立を考え作りましたが、私たちが帰る時には食べて下さる人達の顔が見られずとても残念だった事が思い出されます。又、駿府学園に伺った時には、学園生1人を付き添う事となり食事、遊びを一緒に行き気持ちも通じ合い帰りには名残りおしく帰って来た事もありました。この2つは更女の二大行事だと思っておりました。

私達の活動はいつも保護司の方達と連携をとり、御一緒させて頂きましたので視察研修、その他種々の行事、活動もスムーズに事が運びとても有難かった事でした。一番の思い出は黒4ダムに行かせてもらった事、又私達子供の頃の懐かしい「鐘の鳴る丘」の作曲のもとになった所にも行かせて頂き、なかなか実現出来ない様な所にも御一緒させて頂いた事懐かしく思い出されます。

平成19、20年度会長をさせて頂き、西部ブロック研修会を担当させて頂きました。掛川に研修に来て下さった皆様に記念品をさし上げようと会員全員で品々を作り当日とても素敵な小物を贈る事が出来た事、当日の運営も滞る事なく進み、掛川地区をアピールする事が出来ました。まさに全員力の結集でした。私の心に深く残された出来事でした。



前にも述べさせて頂きましたが、保護司の方との連携により多くの活動をさせて頂き、私は会長の時「(目的は同じなのだから) 保護司と更女は車の両輪である」といつも云って来ました。

保護司の方には受持である人に常により添ってその人の更生を助け犯罪のない明るい社会を作ると云う明確な最大目的が有りますが、更女はどのような活動をしたら良いのか究極の目的は明るい社会を作る為の活動なんだけれど、といつも考えておりました。平成29年10月に静岡県更生保護女性連盟結成55周年記念大会が開催された際、日更女会長の千葉景子様地域遺産を地域のチカラでと云うお話を伺った時、掛川更女には今まで各地域でいろいろやって来た活動は、ずっと続けられておりこれが地域遺産として残していくべき活動だと感じました。最近会員に配布された物でしょうか明確に活動内容が書かれているパンフレットを頂きました。ここに書かれている内容を皆様で検討し、今後もよりよい活動が続けて行かれる事を期待致します。又、昭和34年9月皇后陛下より更生保護関係者に賜った御歌が書かれております。

きずつきし心の子らをいだきよする
ははともなりていつくしまなむ

この心を更女の心として活動し又、生活する上にもいつくしむ心を持ち続けたいと心に深くとどめおこうと思いました。



『コロナ禍の日々』

掛川支部 齋藤 昌子

第100号の発行おめでとうございます。

100年に一度の疫病と言われ私達の生活に支障をもたらしてきたのは4月頃でしょうか。

手帳に書かれた予定は次々にキャンセル、ステイホームをせざるを得ない状況となりました。

外出は膝関節のリハビリと自宅から2～3分の畑での家庭菜園。家では部屋の片づけ、マスク作りなど先の見えない自粛生活に心が疲れてきました。

そんな時、友人に誘われ金谷（牧之原）諏訪原城跡に行きました。高天神城攻略のための退城として壮大であります。近場で450年も前の歴史に接しとても楽しく過ごす事ができました。皆さんも足をお運びください。

11月に入り感染者が増えてきました。誰が感染してもおかしくない時期に私達は、手洗い、マスク、会食などに気をつけコロナに負けない健康状態を保って暮らしていきたいと思います。



『思い出』

掛川支部 永田 謠子

毎回楽しみに読ませていただいている更女だよりが、100号を迎えるのですね、歴史を感じます。

市町村合併の前から入会していました。当時は「更生保護婦人会って何をしているの?」とか「よく入っているね。」とか言われました。知名度の低い会だったと思います。

特に記憶に残っているのが、静岡の少年院を訪

問した事です。坊主頭で、ていねいにあいさつをしてくれた少年を覚えています。こんなに礼儀正しい少年がどうしてここにと思ったものです。再犯も多いと聞き、心が痛みました。

現在は、掛川支部の会員も減少が進んでいると聞いています。若い会員が増え、今後も更女会が続いていくことを願っています。

『更女の心』

掛川支部 梅津 純子

コロナ禍の中でも、きちきちと届く「更女だより」、昨年からは会長さん自ら届けてくださいます。読ませていただくと、皆さんの温かい心に溢れた活動の様子が伝わってきます。

男女共同参画が言われている今、女性だけの更生保護なの?と思うこともありますが、会員の皆さんの女性らしく柔らかい心は、きっと多くの相手の方に響いている事だろうと思います。かなり

古いコマーシャルか何かに、「指圧の心 母心」とかいうのがあったような気がしますが、更女はまさに母心なのでしょう。我が子を育て慈しむような心で取り組んでいる方々の活動は、私のような席だけの会員にとってはまぶしいものでした。

更女の長い歴史とたゆみない活動に敬意を表します。

『我が家の年中行事と食文化』

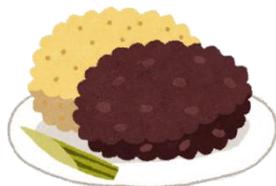
掛川支部 平出 芳枝

掛川地区更女だより100号。昭和、平成、令和と受けつがれた先輩皆様のお働き素晴らしい財産です。

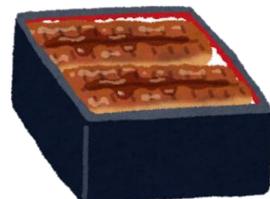
お目でとうございます。

食育といわれている昨今、私の先祖から祖母、母、私と実行しています事

- ・正月 元日～3日
おぞう煮：大根、里いも、茹でるおもち
- ・七草がゆ 7日
大根、人参、白菜、ごぼう、里いも、しいたけ、あぶらげ
- ・鏡開き 11日
供えた餅でおしるこを作ります。
- ・小正月（もちい）
小豆がゆ、茹でた小豆、おもち小さくしておかゆに炊きます。
- ・はつか正月
お正月の行事が終り疲れをいやし好物をいただきます。
- ・節分 2月3日
めざしを焼いて鬼を払います。豆をいる時、こうの葉で身体をなげて健康を願います。
- ・ひな祭り 3月3日
ヒシ餅を作ります。くちなしの黄色、よもぎ、食紅の赤色
お昼、おすし、酢の物 おひな様に供えます。
- ・3月 春の彼岸の入り
だんごを供えます。
中日 ぼたもち(自家製)
- ・端午の節句 5月5日
かしわもち(自家製)
- ・たなばた様 7月7日
赤飯、すいか 供えます
- ・お盆 7月13日～16日
13日夜 夏野菜の煮物
14日昼 おそうめん
15日 おはぎ(きな粉)
16日朝 ごはん、みそ汁、お菓子でもてなし
ご先祖様を送ります。



- ・土用の丑の日 暦の初の丑の日
うなぎを食べます。
- ・秋の彼岸の入り
おだんごを供えます。
中日 ぼたもち(自家製)
- ・お祭り
10月9日 宵まつり 赤飯を炊きます。
10月10日お昼 おすし
- ・神送り 11月1日朝
赤飯を炊きます。神様が全国から出雲大社に集まるので、お弁当です。
- ・恵比寿こう 11月20日朝
甘酒、すりやきもち(米をすりばちでする)
今は米粉を買います。フライパンで焼きます。
夜、大根、人参、野菜の煮物、鯛の塩やき、桜ごはん
- ・いのこ
12月8日 以前は秋の取り入れが11月末でした。忙しさも終わり一息。あまい物(いのこもち)今はお汁粉
- ・冬至 12月21日
かぼちゃ煮物 ゆず湯 大病にならない
- ・お餅つき 12月30日
- ・年越しそば 12月31日
子供の頃、祖父がそば打ちをして大きな鍋でゆでるのが楽しみでした。



以上の食物は、神仏に供えて頂きます。

今の時代に、いまさらと思う方がおいででしょうか？四季を感じ、楽しみ、心の持ち方、日本の食文化を守る事、次代を担う若い人に伝われば嬉しいです。

更女の活動に若い人達の参加を希望し、更女の和が大きくなることを祈願致します。



長女が1才過ぎ～半年、医者からもわからないといわれた原因不明の嘔吐下痢症状で入退院を繰り返した辛い経験から、私の思いですが、毎日家に居て洗濯物を取り込める日は“幸せ”と思えるようになり、天気で長女の体調の良い日は、お城の公園へ鳩や鯉、白鳥に餌をあげて、図書館に寄り本を借りてこられるようにまで良くなっていき、丁度読み聞かせをしている時に、何度か参加して顔を覚えてもらうようになってからよみきかせ会に誘われ、私が絵本を聞く方で感動した事もあって、今があります。

私の子供の頃は、親の昔話を聞いていた位で、絵本といっても、厚紙で日本画のさし絵の昔話位しかありませんでしたので、親になり、絵本の分類も多くあり、どれを読ませてよいかわかりませんでした。だから、子供の年齢に合っているのか良い本を知っているか、いないかでは、これからの人生に影響が生じてこないかと思い、子供と一緒に絵本を知っていこうと思いました。

ひまわりの会の方々は、年齢も幅があり、趣味も多様性を秘め、受け身でなく能動的に作り上げていく面白さと、先輩達の会話は何年後の自分の事として受け留める事ができました。何年か経ち、読み聞かせをしていると、子供達のクリッとした目の輝きから元気をもらう事にも気づき、飽き性の私が長く続けられるのは、以上の事からだと思っています。

長女の時は、「よみきかせ」は浸透しておらず、6年後に生まれた長男の小学校に、ひまわりの会に読み聞かせ依頼が、読書の秋に全学年授業時間させてもらうようになり、その5年後に生まれた次男の時にはもう、幼稚園から、保護者が「よみきかせ」をするようになっていきました。次男から2つ下の末子の時には、幼稚園から中学校まで、学校へ地域の方々も加わり、よみきかせてもらえるようになり、さらに「ブックトーク」「ビブリオバトル」といった手法も浸透していきました。

私の入っているよみきかせ会ひまわりは、毎週水曜日 午後3時～4時に中央図書館でおはなしを始めて40年経ちます。いろいろな親子の何げない子育ての相談相手にもなっています。図書館でも、よみきかせの時間つい楽しくて声が大きくな

って注意される事もあったのですが、今のコロナ感染拡大予防の為、明るい図書館が閲覧禁止で暗くなり、机でバリケードされ、本を選べない人の気配のない光景は、信じられない程の大ショックを受けました。そんな状況でも、よみきかせができるにはと考え、報徳社の庭をお借りして、6月4回よみきかせができました。図書館で「あおぞらよみきかせ」とポスターを張らせて頂き、ベビーカーに乗る位の親子10組位のママ友達が来てくれました。親達が口々に「どこにも行く所がなくて」と集まる場所となって来てくれていたようです。

でも7月から、閲覧再開となり、現在広い地下会議室で、よみきかせができるようになり、ホッとします。更に、図書館ボランティアには、「子ども読書を考える会」という会で、乳児6ヵ月健診時に、絵本2冊よみきかせして、お好きな方を一冊親子にプレゼントしているのですが、6ヵ月児でも、親がよみきかせている乳児は、目の動きで一目瞭然です。改めて、家庭環境の大切さを感じ、自分の子育てに本の重要性に気づいて良かった事を経験者として助言する場にも、お手伝いしています。更に、中・高校・高齢者サロン、特別学級へと読み聞かせさせて頂けるようになり、場をこなして参りましたが、今でも読む前は、顔を合わすまでドキドキ・ワクワクしています。その人各々の良い本、感動する本との出会いは、きっと何冊もあり、心に残っていると思います。

サン・テグジュペリの「星の王子さま」の「一番大切なものは、目に見えない」という一節は、私の中学一年の教科書で知りましたが、3. 11後の今、苦しい現実を前にしても、その先にある今は見えない希望を持ち続ける事が大切だと改めて心に刻み、年老いてきた私の世代がしてきた事を若い人達の支えになり、たとえ今は真黒な世界の中にも、明るく希望を持てるように、是非、更女の会でも更生ばかりでなくて、身近にある未来を担う子供達の成長を応援してもらえたらと思って寄稿させていただきました。(読みにくい文章で失礼しました。)



『心に残っている友人の言葉』

掛川支部 田邊 もとい

10年以上前の事です。あるサークルに入っていました。ある日友人が「あなた若いわね何才？」
「はいあと3年したら、定年です。」と返事をしました。

「そう頑張ったわね！でもね、あなた一人の頑張りでも無事定年を迎える事が出来た訳ではないのヨ。家族の協力、地域の協力、たとえばゴミ出しは、決められた日に出せばいいではなく、地

域のボランティアの人のささえがあつてこそ、毎日がスムーズに生活が出来たのヨ。定年を迎えたら、あなたの出来る事でいいから、無理をしないで、お金をもらわないで、手弁当で何かをしてね。」その言葉が今でも心に残っています。更女に入会して浅い私ですが、うれしく思います。お金をもらわないで、手弁当を持って参加したいです。

～楽しんで頂けたら～

掛川支部 堀内 広江

- ・初春や窓も破れむ笑ひヨガ
- ・若葉摘む雄略帝のことをふと
- ・安寧祈る合唱土偶初詣
- ・里神楽お雛子耳に棲みつきぬ
- ・蒼穹の良寛祭や落葉踏む
- ・アルパカのセーター二人クスコの夜
- ・田楽の牛我に突撃春の闇
- ・梅明かり防人詠みし峠道
- ・辻説法空也に日永ありしかな
- ・長河は李杜の河なり春の風
- ・初夏や白を極めて巡視船
- ・風薫るみんなで守る木の駅舎
- ・柿渋の型絵百種や光琳忌
- ・源流は南アルプス田水引く
- ・呱呱の声歩み留めて秋高し
- ・夫丹精の豆より生まれし新豆腐
- ・秋祭大獅子を繰る二百人
- ・梅池や木道かろき紅葉風
- ・秋葉路の新たな鳥居広重忌
- ・義父太鼓父横笛の良夜かな

『更生保護女性会、六年目で改めて考える』

掛川支部 八重樫 隆子

「掛川地区更女だより」の100号、おめでとうございます。私は更生保護女性会に入会させて頂いて六年になり、お世話になっております。積極的に活動することも無く会員として在籍しています。

ただ、何度か「少年の家」の夕食作りには参加させて頂きました。いつも四～五人のお仲間と静岡まで行き、一緒に買い物をしてお料理をするのも慣れて来ると楽しく思えて今後とも、こういうお手伝いなら参加させて頂きたいと思っています。

「少年の家」も超高齢化社会の影響が若い人より中高年の人が増えてきているようです。

コロナの影響もあり、世の中が変わりゆく様子をひしひしと感じる今、掛川地区更生保護女性会の活動も変っていくかもしれませんが、世の中を支える大事な活動だと思いますので、100号を一つの通過点として、これからも続いて下さる事を期待しております。



先日8月15日は75年目の終戦記念の日でした。

昭和・平成の時代が過ぎ令和元年を迎え遠く遠く時代は流れて行き戦争の思い出も次第に薄れゆく淋しさを感じます。

私の師である俳句の甲斐遊糸先生の句集「紅葉晴」という中に、こんな句があります。「万緑や微光帯びたる無言館」「無言館出でて眩しき夏の雲」「雄弁にまさる無言の合歓の花」「妻の裸身描きて征きて還らざる」私が胸を打たれた俳句でこの中に出てくる無言館というのは、長野県上田市にある戦没画学生慰霊の美術館のことです。

皆様の中で訪れた方も居らっしゃると思います。この無言館に十年ほど前、秋深まりゆく頃私も訪れた事があります。一般の美術館には無い特別の雰囲気によって圧倒されました。かざってある絵の前に立つと、一枚一枚の絵から、もっと描きたい、もっと描き続けていたいという思いが伝わってきて胸が熱くなりました。鉛筆に託された一本の線に美を追求し将来の画家を志し、夢を追いかけて描き続けたかったであろう若い人々の思いにあふれていました。そうした画学生達の思いを無惨にも断ち切って戦地へ行かなければならなかった若き画学生たちの残した数々の絵が展示してありました。そんな展示の中に最愛の妻に捧げた一枚の絵があり、若い二人の愛を無言で語りかけていました。帰らざる夫を待ち続ける妻のいとおしさが伝わって来ます。大きな夢をもちながら若い身を

戦争に捧げなければならなかった時代、拒むことのできなかつた赤紙。どんなに苦しみ無念だったことでしょう。むごき時代でした。

そして、この無言館に掛川出身の学生、桑原喜八郎さんの絵も展示されています。今の掛川西高校から東京美術学校に入学し、大学三年生の12月学徒出陣し19年に外地へ向かい20年2月ビルマで爆撃弾を受けて戦死。24才でした。桑原喜八郎さんの絵は御実家に残されていて毎年掛川の二の丸美術館で展示されます。

数々の絵を見終へて無言館の外に出ると木々の色どりがきれいでした。

私が住んでいる地区京徳公園に忠魂碑があります。南郷地区の若い人達が戦争の犠牲となり、その御家族の悲しみを思ふ時代から哀悼の念を禁じ得ません。今私達が平和に暮らせるのもおひとりおひとりの御霊のおかげです。安らかにおねむり下さいと念じることしか出来ません。

甲斐先生の俳句と共に改めてあの若人の悲しみ苦しみを思い出し平和への思いを強くしなければと感じた夏でした。

戦争の悲惨な姿を知っている私達が二度と又、子供達や孫にさせてはならないのです。そのために戦争で味わったこわさや苦しさを伝えていかなければと強く思います。

～満月～

掛川支部 落合 満江

- ・畦道をかかす稲穂や風の音
- ・満月のあきる事なし見え隠れ
- ・静かさや息衝く畑の露光り



『更女活動で得たもの』

掛川支部 塩澤 歌子

「三つ子の魂百まで」という諺（ことわざ）を私達の世代は、心に留め育児をして来ました。私が更生保護婦人会（平成 15 年女性会改め）に入会致しました頃は「子育て支援活動」に重点を置いてという方針のもと様々な研修実践が行われると同時に「少年の家」の食事作り「駿府学園」への慰問などの参加により更婦への認識を深めてゆくことが出来ました。青少年健全育成、明るい社会づくりと保護司の皆様との合同研修等連携して活動していたと思いました。記憶に新しいのは「冠講座」を立ち上げたことですが社会が大きく変革する中その時代に即応した活動を工夫し会長さん役員さんのご苦勞により現在に至り、100 号の「更

女だより」の発行は、掛川更女の歴史にとって素晴らしいことだと思います。

令和 3 年の春を迎え昨年からの国内外共に新型コロナウイルスの感染拡大で、すべての活動がストップ状態となり今後の見通しもつきませんが身近な奉仕の輪を大切にしてきたいものだと思います。

私にとりまして更女により学んだ見聞、同じ志を持った皆様との出会いは、心の宝物となりました。

今後、若い世代の人達に広め繋げていきたいものだと切に願っております。

『更女会で知った事』

大須賀支部 中山 キクエ

更女だよりの発行に携わって下さる皆様方のご苦勞に、感謝致します。本当にありがとうございます。

私が更女会に入会するキッカケは、お友達のお誘いを受けての入会でした。何も知らない、何をするのかもわからないままの入会でした。

現在では福祉施設への慰問、少年の家への食事作り、冠講座等々。又支部では地域の行事の参加、おしゃべり交流会として有志の集で、講演会、小物作りをし、自分達の活動範囲を広げ、会員相互の意識の向上をはかり、強い絆で結ばれており、たのもしい事です。

ここで私が心に強く感じた事を書かせていただきます。

駿府学園（静岡少年院）の誕生会への参加、静岡少年鑑別所の訪問等で罪を犯した少年少女達とのふれあいで、更女会の大切さを知ることが出来ました。

少年院を卒業する少年が、在院生ご家族の前で自分がこれからどのような生活をするか、意見発表を行うのです。その発表会に参加する機会を得る

ことが出来ました。その時、こんなにも素直な少年に再犯をさせてはいけないと思いました。

少年院から帰って来た少年に対して私達はどのような思いで居るのでしょうか？「あの子」はとったり、言葉に出したり…。それが再犯につながると、やはり更女会の私達は少年の居場所を作ってあげられる様にお手伝いをしていけたらよいと思うのです。更女会に入会してほんの少しだけ自分を見つめ直すことが出来たかな？？？と思う。

更女だより 100 号の記念に自分の思いを綴らせていただきました。



『無題』

大須賀支部 山口 友美恵

いつのまにか夏も過ぎ去り、日に日に秋めいてきた今日この頃です。夏の暑さの頃は庭仕事をすするにも暑さや虫に閉口しながらも仕方なく作業していたものです。

それが最近では空気も一気に変わり、気持ちの良い青空の下で庭仕事に精出すようになりました。草むらから見つけ出した新しい芽にも喜びを感じます。

晩秋の時期はあっというまに過ぎ去ります。直に木枯らしの季節がやってきますから今日一日が貴

重に思えてきます。寒さで空気が乾燥してくるとインフルエンザやコロナの流行も心配になります。マスク、手洗いの習慣を続けてこれからの季節に備えていきたいです。



『更生保護女性会に入会して』

大須賀支部 鈴木 幸子

昭和 38 年静岡県更生保護婦人連盟は 8 地区会員 600 名で発足しました。

平成 16 年静岡県更生保護女性連盟として改称しました。私が入会したのは平成に変わってからですが長年になります。12 年前掛川地区の会長になり、その年に夫が急死し一人暮らしになりました。大変落ち込んでいる私を、地区の役員が毎日の様

に家を訪れ元気付けて下さいました。その時の事は今も感謝しています。

罪を犯した人の更生を支援するだけでなく全ての方が快適な人生を過せる様見守っていく役目もあるのかとその時感じました。

今後も会員の皆様と活動を続けて行きたいと思っ

『コロナ禍の中で』

大須賀支部 木下 艶子

100 歳おめでとうございます！と真っ先に思っ

てしまう程、100 号に反応してしまいました。先輩方や会員方々の積み重ねの大きさを感じます。

自分自身を振り返りますと、更女会に入って、4、5 年まだまだ幼稚園児位なのですね。今年の 1 月中国から始まった新型コロナ、こんなに世界中が混乱に陥るとは予測しませんでした。2、3 ヶ月も過ぎれば落ち着くのではと考えていましたが残念ながら期待は裏切られました。まだまだ継続中です。歴史に刻まれる 1 つとなるのだと思います。コロナによって更女会の行事も中止、生活そのものが変化を求められました。今

まで自由に行動出来ていたのが自粛生活。複雑な思いにかられたのは私一人ではないと思いました。いつでも参加出来るではなく、参加出来ることがラッキーであると思ひ、時間を大切に使う



『おしゃべり交流会「マスクの作り方」』

大須賀支部 田中 紀美枝

新型コロナウイルスの拡大から活動自粛制限されている中、今回のおしゃべり交流会「西村大臣使用型マスクの作り方」ということで、何枚あっても必要です。出席させていただきました。

時節柄、体調の聞き取り、体温測定、手指消毒、マスク着用、席の間隔と十分な感染防止対策で安心して参加することができました。

裁断した布、ゴム、作り方のプリントを頂き、伊藤さんのわかりやすい説明。長方形の布があったという間にりっぱな大臣マスクに。ミシンの実技もあり持ち帰っての製作となりましたが、何とか作れそうです。デザインも楽しめるなど、ほんとうに良く考え、作りやすくなっていると感心しました。

今回はゆっくり楽しい集いとはなりませんでしたが、次回の交流会は11月11日まきばの家の施設長さんのお話。12月3日は植栽と計画されているとの事。コロナ禍の中でも交流会を開いていただいたからこそ、閉じこもりがちなのの中会員の皆さんに会え、声を掛け合うことができました。とても有意義な時を過ごしました。感染防止に十分気を付け、次の会も楽しみにまた皆さんに会いたいです。



『視察研修に参加して』

大須賀支部 森川 美沙子

更生保護女性会に入会間もない私ですが、まきばの家を皆さんと一緒に訪問させていただきました。

会員としての活動経験もほとんど無く、何もわかっていない私がまきばの家を訪問させていただこうという気持ちになったのは…まきばの家から車で3分の処に暮らしながらいつも素通りで通り過ぎるだけだったからもう少し身近に感じたいという気持ち、そして笠原小放課後児童クラブに勤務の傍ら、下校中のまきばの家の子供たちとも時々言葉は交わしていたことなどでした。

施設長代理の女性が施設内の様子などをお話しくださり、お話の中での「子供たちの孤独」という言葉が心に刺さりました。まだまだ親に甘えたい子供たち、思春期を迎えた子供たちが孤独と闘い、やがて孤独を受け入れるようになるのかと想っただけでも胸が締め付けられます。

しかし、過酷な環境の下に生まれ育った子供たちが「子供たちの孤独」に想いを馳せてくれる職員の皆さんと暮らしているのだと思えたことで

気持ちが救われたようにも感じたのでした。

子供たちは成長の過程で個室を与えられるということです。施設や学校などの集団生活の中で独りの時間も欲しいと思う人間として普通の感情を個室と言う形で考慮されていることにも安堵しました。(数日後に出会っておしゃべりした小1と小2の3名の小学生女兒はまだ5名同室とのことで、何故か少しホッ！)

私にできることは限られていますが、まきばの家の子供たちと出会った時にはとびきりの笑顔で応え、彼らの話に耳を傾けられる近隣の住民で在りたいと思います。

更生保護女性会のことはまだ何も知りませんが、参加の機会をいただきながら少しずつ学ばせて頂ければと願います。

本日はお声かけ頂きまして有難うございました。

『研修会に参加して』

大須賀支部 鶴田 享子

私は、この度友人より更生保護女性会員にと勧められ入会しました。今年度は、コロナ感染の為通常の年と異なった活動のようですが、研修会のお知らせをいただきボランティア活動的な事を行なった事のない私にとっては、不安でしたが、参加させていただき自分にとって、色々な体験をさせていただきました。

今回は、更生保護という活動よりこのような組織に参加されている皆様と、お会いでき生き生き活動されているお姿を拝見し、お付き合いできた事が、自分にとっての一番の研修になったと思っております。

次回からも積極的に、ご参加させていただきたいと感じました。

『まきばの家施設長様のお話を聞いて』

大須賀支部 内藤 とみ江

幼児から高校生までの子供達が、この施設の中で生活をしている現状を聞いて、家庭では生活できない子供達と又、子供を養育できない親達の事を考えた時、訳あって、このような生活を送らなければならないという事が本当に心が痛みます。

聞くところによりますと、親からの虐待が8割だそうです。どんな思いだったのでしょうか？その親も自分が虐待を受けていて、子供に接する事、育てる事を知らない親もいるそうです。親の愛情を受けられないまま親元を離れてこの施設の中に入って来たのは虚しいですね。

まきばの家の職員さん達に見守られ、親代わりとなって、年令も性格も違う子供達の対応に大変苦慮されている事を伺えました。

しかし、牧場の大自然の中で、のびのびと生活している環境の中で心身共に養われていくのが自立への第一歩かもしれません。

大人になった時には、この経験が成長に繋がって行くことになりそうですように願っております。



『おしゃべり交流会に参加して』

大須賀支部 深谷 由美子

まきばの家施設長様のお話を伺って感じた事、今までは、どんな所でどのような子供達がくらしているのか知りませんでした。施設長様の身振り手振りを交えた明るいお話で、様子を知る事が出来ました。時には兄弟や友となり親のような教師としても対応されていて大変な苦労を感じました。

私には近くに住んでいる男の子、中・高生の2人の孫がいます。塾の送迎をしたり一緒に食事をしたりと顔を見て成長の手助けになっているかな

と見守って幸せを感じております。

子育てには、多くの人の手が必要だと思います。まきばの家の子供達も地域や学校に溶け込み成長できる事を祈るばかりです。

10月のハロウィンに家で収穫したジャンボ南瓜とミニ南瓜で飾り付けした物を、大石支部長さんに渡したら、まきばの家の子供達へのおみやげとして考えて頂きました。子供達には少しでも笑顔になってもらえたら私もうれしいです。

『集まれなくてもつながる地域サロン活動』

大須賀支部 進士 久恵

私たちは小地域サロンを5年前に立ち上げて「サロンふじつか」と名付けて活動しています。ところがコロナ禍で皆んなの健康、安全の為に3月から活動を中止している状態です。

そんな中サロンの再開を心待ちにしている地域の方も多く、普段参加されている方40名のお宅にボランティアが訪問し、在宅でもできる脳トレなどの資料を配布しています。

また自宅で過ごす時間が多く運動不足も心配されるため、100円ショップで購入した握力を鍛えることのできるボールを、サロン参加者全員に渡し、体力低下に気をつけて頂ける様声掛けもしていま

す。ただボールを渡すだけでなく、独自のスタンプカードを作成し、ボールを使った体操をした回数に応じ、表彰したり、スタンプカードが1ページ埋まる毎に景品を渡しています。

コロナ禍で出来る活動が限られてしまっている中でも地域での人と人との繋がりを大切にして「集まれなくてもつながる地域サロン」を今後も続けて行きたいと思います。

と同時に、更生保護女性会活動で得るものも多く、自分磨きのボランティア活動を続けて行ければ嬉しいです

『更女会 2年目』

大須賀支部 平松 よしの

私は、更女会に入会して2年目になります。昨年同様に、普段一般の人が見られないような所を見学したり研修会や講演会への参加、おしゃべり交流会で皆さんと楽しくお話できるとしていました。しかし今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で行事が中止になったり役員さんのみで行うという残念で心配な一年だったと思います。早く終息してほしいものです。

11月11日、まきばの家の施設長さんのお話に参加しました。近隣にあるということくらいしか知りませんでした。ここでは、年齢層の違う30人の

お子さんを預かっているそうです。いろいろな事情で心に傷を負ったりした子供達との日常生活や「おかえり」などのあいさつを心掛けていることや、頑張って大学へ行く子の話などいろいろ聞くことができました。施設長さんが「目標はこの子供達を社会へ送り出してあげること」それを聞いて胸が熱くなりました。また、限られた人数の職員で運営して行くのはなかなか大変とのことでした。が、頑張って守り続けて行ってほしいです。

3年目は、皆さんと交流し安心して行事にも参加して新しい発見があるといいなと思っています。

『行動する更女の姿を見て』

大須賀支部 立石 佐江子

コロナ禍の中で更生保護女性会の活動は感染対策を行いつつ活動への揺るぎない思いと努力によりその輪が少しずつ広がっていく年となりました。役員の皆様、会員の方々へ感謝申し上げます。昨日もまきばの家での花の植栽ボランティアの活動の様子が新聞に掲載されていました。当日参加された皆様本当におつかれ様でした。やがて咲きほこる花々を見て、きっと子供達の笑顔も増えることとなるでしょう。年を重ねるごとに行事に参加する機会は少なくなりますが、更女の信条を

忘れる事なく地域や社会のために微力ながら手をさしのべていけたらと思っております。



『感謝状』

大須賀支部 林 知余

更女だより 100号発行おめでとうございます。先輩の方々のお陰だと、感謝申し上げます。令和2年度、私のような者に、顕彰を受けるよう推薦して下さって、ありがとうございました。

静岡保護観察所長 浦野浩昭様からでびっくりしました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、顕彰式典は中止の為、小澤会長様へ送られてきました。12月3日まきばの家へ植栽の日、大石支部長様が届けて下さって、小久保施設長様の代読で感謝状を頂きました。

本当にありがとうございました。

これからも、何かと協力して行く所存でございます。早く明るい生活に戻るよう、新型コロナウイルスが終息してほしいです。



↑10/25 「まきばの家」研修の様子



↑12/3 「まきばの家」植栽後の花壇

←
12/3「まきばの家」へのクリスマスプレゼント

『みなさんのご協力に感謝！！』

大須賀支部 大石 幸恵

あっという間に師走を迎え、今日3日は、更女大須賀支部会員 15名でのデンマーク牧場福祉会「まきばの家」の花壇の植え付け作業です。

会員の深谷さんが、「子供達全員に」と、

- ・クリスマスリース
 - ・折り紙や樺の実の飾り
 - ・牛乳パックのお盆
- を作ってくれました。

作業前に、参加者全員で、小久保施設長様にお渡しし、「素敵なクリスマスプレゼントになる。」と、大変喜ばれました。

又、今年度は、お雑巾を大須賀支部のみでなく掛川・大東の皆さんにもご協力いただき、お陰で35枚もお届けすることができました。

続いて、花壇の植えつけです。3年目になりますが、まだまだゴロゴロした石が多く、石を拾って、堆肥を入れ、水を打ち、花をバランスよく配置しました。花は、パンジー、ビオラ、金魚草等。

咲き揃った時をイメージして、わくわくしながら植えました。みなさんの手際よさに感激！

コロナ禍の中ですが、みんなで集まれて楽しく作業ができ、きれいな花壇に仕上がりました。

施設長様から、「子供達にも、将来善意を社会に返していける大人になってほしい。」とコメントを頂き、嬉しい思いで帰路に着きました。

学校から戻った、「今日の子供達の一声」がどんなだろう～！と楽しみです。



『無題』

大東支部 熊切 信子

「来週又ね」会合、お花見、紅葉見物とあたりまえの生活が、プツリと途絶えてしまいました。

新聞ではコロナ禍、アフターコロナの暮らし方と先の見えないニュースの中でだんだん世間が狭くなってしまいました。

『趣味の一つ』

大東支部 安藤 明美

昨年より”ウッドバーニング“を始め、私の趣味の1つに加わりました。今迄静や動の趣味の楽しみを色々体験してきましたが、最近では年齢や体力を考えてか自分では静を好む様に感じられません。

ウッドを勉強している知人の進めで始め、1年半経った今では細かい作業も根気よく続けられる様になり、ウッドの楽しみ方や奥深さが少しずつでも理解できるようになりました。

何と言っても、作品が残り、今では以前の作品を見ながら当時を思い出しても懐かしく、自分なりに分析をして楽しんでおります。

これからは自己防衛でマスク、手洗い、三蜜を守って、とじこもらない元気な毎日にしていきます。とりあえず体を動かす事から始めます。

今後も、まだまだ難しい中でも、笑える様な作品を制作し、でき得るなら大作に挑戦し、無理のない限りこれから先も楽しみたいと思っております。

※ウッドバーニングとは

電熱ペンを使って木を焦がし、絵や模様を描く技法のこと。



『“笑顔の写真”に魅せられて』

大東支部 渥美 敏子

2年前の10日、子供達の可愛い笑顔の写真数枚と、ハガキ大の感謝状が届きました。日本ユニセフ協会から「10年の感謝の気持ちを込めて」とありました。

それは、1枚の写真に出会った事が始まりでした。「母親の腕の中で、出ない乳房をくわえていた痩せ細った赤ちゃん、目元にはハエが。」母親にもそれを払う気力さえない様に見えました。

子供を持つ同じ親として見過ごせない、言い様のない切ない想いが…今私に出来る事は何か！たとえわずかでもと心に決め、今日まで来ました。

近年は2年毎の更新にし、この11月でサポートが切れますが、今では彼らの写真から、癒しと元気の元をもらっています。「もう2年頑張るから。」と写真に約束をしました。

現在は世界中どこも、コロナ感染拡大により大変な時代、ましてアフリカでは想像もつきません。可愛い彼らの笑顔が消える事のない様、必要な愛の手が沢山届きますよう願うばかりです。

『掛川地区更女だより 100号に寄せて』

大東支部 雑賀 雅子

更女だより 100号の原稿用紙を地区役員の方から預かりました。

後期高齢者の仲間入りして早くも2年目を迎えようとしています。私が更女会に入会したのは定かではありませんが、平成12年頃かと思います。

平成23年に第58回県更生保護大会で10年の感謝状を頂き更女活動の役割の大切さを痛感した事を思い出しました。あの頃は各地区に婦人会という組織があり、その役員終了後自動的に更女会員となりました。これ程大規模な組織と思わず、与えられた役割をこなして行った次第です。静岡刑務所訪問、少年の家の食事作り、他県の女性刑務所視察等です。地区では保育園の赤ちゃんのお守り、老人ホームの清掃等にも参加いたしました。

しかし時代がこのように移り変わり、コロナ禍も相俟って多種多様な事件事故が多発する社会となってしまいました。何よりも一番大切な家庭の崩壊や家族を巻き込んだ少年犯罪が増えている事に心が痛みます。コロナ禍で心身共に疲弊し、ストレスを身近な人にぶつけて発散している事と思われる。一日も早くコロナが終息して人々の心が平常に戻る事を願わずにはいられません。この時代こそ人の心に寄り添う更生保護女性会の役割は大きく大切な事と考えて前に進んで行ってほしいと思います。

～コロナ～

大東支部 栗田光江

コロナコロ	マナビノヒビノ	マイニチヨ
コロナマエ	ラクエンヒビノ	ナツカシサ
コロナコロ	イツマデツヅク	マスクカケ
コロナワネ	イキテクタメノ	オシエカナ
コロナヨリ	モットコワイノ	アタマボケ

～秋の庭 (短歌)～

大東支部 雑賀雅子

淋しげな後姿や吾亦紅誰より君を守ってやるよ

手を洗い会話も避けて花柄のマスクの中に
笑顔はじけり

ほととぎす
不如帰狭庭に群れて咲きほこるコロナに負けぬ

覚悟が見えて

『この頃思うこと』

大東支部 宇田 春子

会員の皆様如何お過ごしでしょうか？お変わりありませんか？6月～7月の長い雨期が終わったと思ったら、猛暑の夏。飲み物と、あふれ出る汗との戦いでした。でも、もうすっかり秋ですね。季節の移り変わりを感じるこの頃です。

相変わらず世界中、日本中で新型コロナの感染

ニュースが続いています。目に見えない不安が年齢と共に強く感じられます。お互いに相手の事を思って常に身近に危険があることに心がけ日々過ごしてゆきたいですね。一日も早く以前のような生活にもどり、活動もでき、大勢の人との話し合いができることを願うばかりです。

『更女だより 100号を迎えて想うこと』

大東支部 栗田 登子

掛川地区更生保護女性会の“更女だより”100号に達した事をお慶び申し上げます。

振り返りますと平成16年には静岡県更生保護女性会と改称されました。そして平成17年に掛川地区更生保護女性会と改称されました。掛川地区の代表を平成17年、18年と務めさせていただきました。長い年月をかけて出しつづけた“更女だより”も100号を迎える事が出来たのも、これまでの諸先輩の方々のご活動、ご苦勞があったからこそ歴史が出来たのだと思います。末永く守り受けついでいく事が私達の使命ではないでしょうか。今後ともがんばって下さいね。

平成18年は私にとっても又当時の理事の皆さんも会員の皆さんも忘れることは出来ないと思います。“日本更生保護女性連盟”よりミニ集会モデル地区に指定され、1年間理事会員共々で更女活動の啓発運動を進めていく事となり途方にくれました。運営資金も送られて来ましたのでさっそく色々な会合へ足をはこび、また昼夜にわたり啓発運動を行いとても大変でした。只一生懸命でした。会員の皆さんのお力をかりて11月までがんばりました。

その後は活動のまとめです。印刷費もないので理事全員で活動記録の冊子を手づくりし、やっと日本更生保護女性連盟に送ることが出来ました。とたんに皆さんの力がぬけたようになりました。

今想うと1年間皆さんでよくやったと理事、会員に感謝への気持ちがわいてきのうのこのように思います。感無量でした。今となればとてもなつかしく想いだされます。良い勉強をさせていただいたと思います。事務局の人達にも大変お世話になりました。本当に感謝でいっぱいでした。啓発のおかげで更女会員も増やすことが出来ました。この掛川地区の保護司会は更女への協力がどこの地区よりも良くてありがたいですね。

又保護司会の方々の多大のご尽力をいただき“事件”“犯罪”などおきることなく毎日が明るく送れることが何よりうれしいですね。今後とも皆さんと手を取りあい連携しあって地域にあったやり方で進めていく事が1番大事かと思います。長い間の想いがいっぱい長くなりごめんなさいね。

『娘と2泊旅行を「Go・To」で』

大東支部 野元 輝子

嫁いだ娘と二人でFDAでおち合って、2泊3日の旅行に「Go・To」で福岡まで出かけました。毎年「母の誕生日に旅行のプレゼントをするね」といって招待してくれるのだ。私の子供が4人いる中で1人きりの娘と。

何かとよく気がつき2人の大学生をもつ母に成長した娘。



私も毎年この10月下旬の誕生日を心待ちにしている。現地についておいしい水たき、福岡独特のごぼううどん、次の日は佐賀までレンタカーで行っていかの活きづくり、夜はホテルで二人きりで家の事、子供の事、自分の小さい時の思い出話にと話はつきません。最後の日は人力車にのせてもらって、車夫さんも重かったろうに一生懸命町の中を案内してくれました。

コロナの時代に合わせた生活様式の中で、中々出合えない町並みの中で、娘夫婦に感謝をし、我が身の幸せをしみじみ感じた2泊3日の旅でした。また来年も元気でいけるといいな。

ありがとう。

『ウイルスを近づけない』

大東支部 近藤 正子

1月末、新型コロナウイルスの事を初めて耳にした。その時は、あまり気に止まらなかったですが、その後連日報道される様になり、緊急事態宣言が。学校は休校になり、働く世代の若者は、生活して行く上で多くのとまどいが有ったでしょう！

これは世界戦争ですよとか、このまま行けば鎖国時代みたいになりそうとか言う人もいました。その頃私は、少し薄れてきた防災グッズの見直しや生活用品の備蓄等もしました。

今では、平常生活を取り戻しつつ居ますが、手洗いやマスクを着用しウイルスを近づけない様、気をつけたいです。

アルコール消毒液も
そこここに置いて…



～川柳（コロナ禍に思う）～

初仕事 祖父母案じる テレワーク
コロナ禍で 苦手なマスク 板につく
手造りの 届いたマスク 姉の顔
都会住む 高齢の友に 励まされ
人恋し 笑顔と声の すばらしさ

大東支部 鳥井 鈴江
コロナ禍で 築いた絆 本物だ
無駄省き 未来を開け 知恵袋
子供らの 生き抜く力 母負けじ
脱コロナ 君もわたしも 皆同志
暁に 努力賞 君我に

『最後のありがとう』

大東支部 宇田 直恵

私も、職業柄いろいろなご家族と、接する機会が多くあります。その中で、あるお嫁さんから、心温まるお話を、聞いた事があります。

その方は、結婚後ご家族と同居し、職業にも就かれていたそうです。若いという事もあり、お義母さんとの仲も、決して良い状態ではなかったと言っておられました。60歳になり退職をすると、待っていたかの様に、お義母さんの体調が悪くなり、ゆっくり出来るかな？と思った矢先の出来事に、びっくりされたそうです。お義母さんは、日増しに具合が悪くなり、起き上がることも、ままならなくなり昼夜を問わず、一生懸命看病されたそうです。

精も根も尽き果てそうになり、私共に支援の依頼が来ました。1日午前、午後の2回の支援で、

少し落ち着かれた様子でした。支援を始め一か月程経った頃、朝一番で昨夜亡くなられたとの、連絡を受けました。お嫁さんのお話によると、意識のもうろうとした中、お義母さんが「ありがとうね」と言うのと、息をひきとられたとのこと。このひと言で今までの嫌な思いも全て消え、感謝の思いに心が変わったと涙ながらに話して下さいました。

人生の最後のことばが「ありがとう」に私は感動しました。お嫁さんの誠心誠意を尽くされた思いが、お義母さんに伝わったのでしょうか。

私は、誠心誠意を尽くすことの大切さを教えて頂いた気がします。

私も、そんな風にその時が来たら幕ひきが出来たら最高と思います。

『楽しい人生』

大東支部 鈴木 あい

13人家族の中に生まれ育ち、心暖かく、楽しい日々でした。小学校4年生より、進学したかったら、家業を手伝う事。子供の頃はあまり遊んでいません。教員になったおば達の使った2オクターブちょっとのピアノで好きな歌、バイエルを習い、音楽の教師を6年半勤め、2人の子を育て教職を去りました。30年間ピアノ講師。

3人の子と4人の孫に囲まれ、明るい夢を持ち楽しく過ごしています。

婦人会、更生保護の活動にも参加させていただき、良き先輩、友を得、学び感謝しています。皆さんにお会いできる日を、楽しみにしています。

『私の心に残る言葉』

大東支部 高塚 志のぶ

《明日》

明日という言葉が好きである。明日には、何が起るかわからない。どんな楽しいことが待ち受けているかわからないと思うと、ワクワクする。その気持ちは、この年齢になっても変わらない。明日があるから、生きているのが楽しいのである。ときには、辛いことや悲しいこともあるだろうが必ず、まだ何も印がついていない明日が訪れる。それが希望でもあるし、喜びでもある。

《生きる意味》

生きる意味など考えたりしない。生きていることを自然の摂理として受け入れ、ひたすら生きるのみである。

《生きがい》

生きがいを上手に探せば、人生の達人だ。生きがいが見つかれば、充実した人生を送れる。むずかしく考えることはない。楽しくてたまらないものを見つけ出せばよいのだ。

《私を思い出すなら》

生前の私を思い浮かべるときは、気難しい顔をした私でなく、元気に笑っている姿を思い出してほしいものである。

※著者 三津田富佐子（1912年）東京

加賀百万石 前田家一族の末えい

一頁読むだけでもっと元気がでる言葉より抜粋

『この頃思うこと』

大東支部 五島 和枝

なかなか終息しない新型コロナウイルス感染症。

最近の異常気象などと共に、地球が警告を発しているように思われてならない。

コロナ感染症が広がり始めた頃、各国で対策をし、その結果、中国北京の青い空、ベニスの運河の魚が見えたなどのニュースに少しホッとしたのもつかの間、コロナは再び広がりを見せている。

毎日の手洗い、マスク着用などを実行し、私達はコロナを正しくおそれ、おごらず、もう少し謙虚に生きていくことが大事だと思う。



『私の宝ばなし』

大東支部 鈴木 あけみ

ここ大東に転居して、20余年、近隣の人たちに恵まれ、茶畑の間から、時々顔を出す富士山を眺めながらのくらしは、楽しいものです。最近Bookリレーの紹介で、スーザン・バーレイ作「わすれられない おくりもの」を読み、心洗われ、忘れ物を思い出させてくれました。私のくらしの中で心に残る風景があり、結構皆に話している事ですが、一度書いてみようと思いました。

今から随分前の話です。

我家はお正月にお墓参りをする事にしている、忙しかったのか、夕方になってしまい、天竜川沿を車で走っている時、あたりの山々や空気まで、真っ赤に染まり広重ばりの赤富士に出会い、お見事景色でした。

次は30年前の夏、家族で伊豆へ旅行し、土肥では長八ブルーに感動し、戸田の宿で夕食後、子供と花火を楽しむため、海岸へ。あたりは、うす暗くなりはじめ、海の暗がりの中、大きな赤い光が目に入り、千浜の海岸で見た夕日とは違う、戸田ではこの方角に沈むんだと思い、あまりにも大きな輝きに、誰かと共有しようと、ふりむいた間に消えてしまいました。翌朝のニュースでジャンボ機の事故を知り、家に帰ってからあれは、伊豆沖を飛行中だったのかと思っていますが、現状を見ていない主人は「まぼろしだ」と言っています。でも忘れられない景色です。

次は2002年サッカーW杯、夕方岩滑にこんなにかしらと思うほど人が集まっていたので、私もとイングランドチームの帰りのバス待ち。ベッカム様を見て、大満足でした。

続いて、2019年ラグビーW杯では、大きなジャパンマークのラッピングバスの窓から、立派な二の腕を出して外を見ている南アフリカチームの選手を見た時、畑から声援を送り、参加気分になりました。そして、ジャパンの勝試合のエコパでの花火を家から眺め、ラグビーはわからないけど、楽しめました。

これらのことが、今までの私のくらしの中でみつけた私だけの宝ばなしとして、小さなポケットに入れてあります。残りの人生、もっと宝ばなしが見つけれそうで、希望を持って歩いてみます。今度は、キラキラポケットにしようかな。



『不安』

大東支部 一会員

今日も東京では285人のコロナ感染者が出たそう。いつまで続くのだろうか。こんな時代が来るとは、思ってもみなかった。



関東に住んでいる娘や息子たちの事を考える。電話で「気を付けてね。」とは言うもののどうする事も出来ない。

私達自身も感染に怯えながら暮らしている。目に見えるものなら対処する事も出来るのだが…

こんな事を思うのは日本中、いや世界中の人たちが思っている事でしょう。

10月になると我が家の庭にフジバカマの花が咲き始めました。

中旬には「海を渡る蝶」と言われるアサギマダラがやって来ました。アサギマダラは、翅（はね）が浅葱色（薄い水色）で半透明のとても美しい蝶です。

10数頭の蝶が淡いピンクのフジバカマの周りを飛び交う光景は美しく、かわいく、とても癒さ

れます。

ひととき、コロナのことを忘れさせてもらいました。

※蝶など昆虫の数は、匹（ひき）や羽（わ）などいろいろありますが、学術的には頭（とう）で統一されています。



～コロナ川柳～

大東支部 鈴木 せつ子

日本を襲ったコロナは、予想に反して長引きそうです。ステイホームで変わったこと。畑仕事に孫の世話、部屋の片付けが充実。暇に任せて主人と川柳など。

- ・マスクよし 化粧時間が 半分に
- ・顔隠す マスクは今や 必需品
- ・パンデミック どんなパンかと 孫に聞く
- ・テレワーク 妻の自由が 失われ
- ・お歳暮に 何がよいかと マスク見る
- ・アベノマスク トランプさんに 送ったら
- ・おいコロナ お前は手じゃなく 足洗え
- ・GoToで コロナが日本を 駆け巡る
- ・GoToは GoToトラブル 多発させ
- ・コロナ禍は 終息までが ディスタンス
- ・コロナから 次々生み出す カタカナ用語
- ・間違うな 三蜜 コロナ渦 テレビワーク
- ・濃厚濃密 過激な言葉も 慣れました
- ・給付金 国はそんなに お金持ち？
- ・無症状 妻はいつでも 無表情
- ・マスクする 美人の妻が かわいそう
- ・ディスタンス やっと三歩 下がる妻
- ・緩和策 GoToコロナと ならぬよう

最後に川柳ではないものを一句

- ・禍の意味は 克服できる 災いなり

『四季の花々』

大東支部 高塚 さとみ

毎年、庭の花々にはたくさん楽しませてもらっています。日本水仙、ラッパ水仙、錦モクレン、君子蘭、河津桜、陽光桜、クレマチス、モッコウバラ、藤、菖蒲、アジサイ、アガパンサス、バラ、シャクヤク、百合、ニオイバンマツリ、月下美人、夜香木、等々。

そして、今年初めて4種類の蓮の花の株をいただいたので育ててみました。初めは咲かせることができるだろうかと不安と期待でいっぱいでした

が、何とたくさんの大きな花が次々と咲き、嬉しくて写真を撮るのが楽しみでした。

今は鉢植えの菊が色づき咲き始めてきています。それとシャコバサボテンがたくさんつぼみを付け始め、これからも楽しみがいっぱいです。

花は四季折々、目で楽しみ、香りを楽しみ、ほんとに癒されます。



『この頃思うこと』

大東支部 鷺山 千恵子

お店が閉店、と知ったときショックでした。3、40年前から月に1～2度、川根温泉に出かけ、帰りに島田北中近くの合掌造りの店「百小屋」で食事をするのが、楽しみの一つでした。ここ何年かは「温泉さん」と呼ばれていました。始めて父母と寄った日、子どもが小さかった頃のこと、懐かしく思い出しました。また出掛けられる日を楽しみにしていたのに。

コロナが出始めたころ、今のような状況を想像することはできませんでした。行きたい所に行き、見たいものを見て、食べたい物を食べ、それが当たり前だと思っていたことが当たり前でない、有難いことだと痛感しています。



大東支部 野中 晴美

コロナが はやく終息して
こどもたちが 安心して
生活できるように

※絵は、野中さんのお孫さんの
作品です。



毎日川べりを散歩しては、カルガモを数えたり、カワセミの姿を見つけたり、シラサギやアオサギを見比べたりして楽しんでいます。今年は、猛暑だったにも関わらず、ヒガンバナがお彼岸に1、2日前からグングン伸び始め、間に合って咲いたのには驚きました。自然の力はすごいなあと感動しました。3年掛かりの「天神橋」の架け替え工事では、大型クレーンの力を見せつけられました。

仕事を離れてからは、充実した日々を過ごしています。自分のやりたいことができる、時間を自由に使える、幸せなことです。自分のやりたいことができるのも、平和であること、そして健康であればこそできることが、今回よくわかりました。勤めていたとき家族をはじめ周りの方々に助けていただいた分、自分のできることをやって少しでも周りの人の役に立ちたいと思います。

コロナの一日も早い終息を祈ります。

『蕎麦打ちを通して得たもの』

大東支部 明石 ふさ子

蕎麦打ちをやり始めて20年になります。

浜松の町づくりの集まりに誘われ参加しました。山梨から女性の蕎麦打ち名人が、道具持参で手際良く蕎麦打ちを見せてくれました。その蕎麦を一口すすると、蕎麦の香りが口の中に広がり、つるつると喉越しも良く「うまい〜」のひと言でした。始めて手打ち蕎麦を食べこんなに美味しいものなんだと感動しました。その時に蕎麦の切りを進められ、幅広の包丁で切ってみました。「切り方上手だね。」と褒められてすぐに自分も蕎麦打ちをしてみたい気持ちになりました。

そのあと蕎麦打ち道具一式等揃えました。蕎麦打ちの集まりで教えてもらったり、家で何回も繰り返し練習して打てる様になりました。家に招いての蕎麦会や依頼があると道具持参で出掛けたりしました。又体験教室の指導もしたこともあります。

そうしているうちに何か物足りなさを感じてきました。浜松の蕎麦道場に通い指導を受けながら、長野で開催された「素人蕎麦打ち段位認定」初段に挑戦しました。

『更女だより』

大東支部 赤堀 房江

「題名」三つの名前で出ています。

この題名…どこかで聞いたことがあるよ…と言われる方は大勢いると思います。まさしくこれは往年の名優、小林旭さんの名曲「昔の名前で出ています」で歌った曲の題名です。

このフレーズをもじって付けさせていただきました。

本名⇒赤堀 房江、日舞の芸名⇒若柳 吉沙幸、短歌の会のペンネーム⇒赤堀 ふ沙江として三つの名前で様々な面で微力ながらそれなりに活かされています。それぞれに内容は異なっていますが三つなりに相通ずる事があり考えさせられる事がた

次に一年間夢中になってお稽古と練習に励み二段に挑戦しました。制限時間内45分の中できちっと行程をこなすことは大変でしたが、時間内で練習した成果が出せました。そのお陰で自信のある安定した蕎麦が打てるようになりました。蕎麦打ちをとおして皆で食を囲み、楽しいひとときを過ごすことができ、沢山の友達と出会い、皆さんに喜んでもらえることも楽しみのひとつとなっています。蕎麦の美味しさは蕎麦つゆで決まると言われています。蕎麦つゆにも更に挑戦し、自分流の蕎麦をめざしていきたいです。蕎麦打ちの楽しさを、2人の娘達にも楽しみながら伝えているところです。



くさんあります。何事も道半ばと言う事で達成される事はありませんが、自分の生きる道として少しづつ努力しながら続けています。勿論、更女の会も40年余協力させて頂いております。たくさんの皆さんに教えられ、支えられて過ごさせて頂きました。矯正施設の慰問、刑務所の慰問等々、更女に席をおかなければ出来なかった経験だと思っています。色々な困難や苦しみ悲しみを経験しながら人生を生きてい行く事、何事も前向きに生きること…

自分なりにこれからも生きていこうと思います。

『この頃思う事』

大東支部 佐藤 穎子

更女活動に参加して、大変な事も有りましたが、友人も出来活動の後には、色々な話で盛り上がり、楽しい時を過ごしました。

コロナ禍で活動中止が相次残念です。

コロナの感染防止をしっかりと守り、趣味の仲間達と楽しんで居ます。

一日も早くコロナの撲滅を願っています。

【亀の絵手紙】



『絵を描く女の子』

大東支部 太田 まつゑ

小学校放課後子供教室に参加した時、絵を描いている1年生の女の子とこんな会話をしました。

私 : 何を描いているの?

女の子 : きのこのお家を描いているの。

私 : 今度は何を描いているの?

女の子 : 木だよ。

女の子は、大きい木や、小さい木をどんどん描きました。

私 : きのこのお家は、森の中にあるんだね。今度は何かな。

女の子 : 小鳥だよ。木に留まって合唱しているの。

私 : 歌声が聞こえて来るようだね。今度は何かな? あれっ? きのこのお家の窓が黄色に光ってるね。なぜなの。

女の子 : きのこのお家には、宝石がいっぱいあってね、宝石の光が窓に映っているの。

私 : そうなんだね。今度は何かな? 猫があちこちにいるね。屋根にいる猫は帽子をかぶっているね。

女の子 : 猫のおまわりさんだよ。きのこのお家の宝石を見張っているの。

私 : それなら安心だね。今度は大きい波だね。きのこのお家の前は海だったんだね。

女の子 : そうだよ。あれっ。描く場所がなくなった。紙をもう一枚張ろう。

そう言いながら、張り付けた紙に大きい波を3つ描きました。そしたら、終わりを告げるチャイムが鳴りお絵描きは終わりました。もし、チャイムが鳴らなかったら、まだ描き続けたでしょう。泳いでいる魚かもしれないし、海に浮かぶヨットかもしれません。想像は果てしなく続いた事でしょう。

私は、子供達と過ごした1時間余り中で、子供達の想像力の豊かさに、びっくりしました。頭に浮かんだ風景が次から次へと絵になり、それが一つの物語にもなってゆくのです。

いつしか私も、物語の世界に入りこんでしまった様な思いを感じました。

女の子がこの先、中学生、高校生、そして大人になっても、この様な、豊かな想像力と感性を持ち続けてくれたらいいなと思いました。



『貢献活動に参加して』

大東支部 鈴木 きみえ

今年は大変な年で、役員の皆様御苦労が多い事と思います。

私は、例年の通り、次から次へとやらなければならない事があり、又、人と接触することが少ない点で、変わらない日々でした。でもいろいろな行事がすべて中止になって、近所の方とも「久しぶり」と挨拶するような状態で「そう言えばきょう一日、よその人と一人も話しなかつたつけ」と夜に、さみしく思ったりすることもありました。

その中で、10月23日の東遠学園での奉仕作業に声をかけていただき、参加しました。初めての事なので不安でしたが、要するに、ふだんの私の仕事と同じというお話でしたので、連れて行っていただくことにしました。

当日は朝から雨。昼からは上がるという天気予報に期待して、鎌やら手甲やら持って行きましたが、午後も降り続いて、ガラスふき、クモの巣とりとなりました。御希望のあった外の草刈も、保護司の方達が合羽を着て行って下さり、大勢の力で広い場所も予定の時間できれいにすることができました。

学園もはじめてうかがいでしたが、広い敷地と建物で、管理も大変だろうと感じました。

短い時間ではありましたが、久しぶりの社会参加に私なりの充足感を持ちながら帰路につきました。



～俳句雑詠～

大東支部 大橋 充子

- ・初春や椰子の実店に恋路浜
- ・早春の夜景に酔ひし明石橋
- ・景観の絶賛に佇つ宇和の春
- ・縮緬を求め丹後の春の雪
- ・特産の干物売る声伊豆の春
- ・風薫る四万十の川静かなり
- ・片陰に鐘が聞こえて松尾寺

- ・いにしへの心し歩く熊野路
- ・島々を往き交う船や瀬戸の夏
- ・盛り上がる浴衣踊りに国訛
- ・滝壺に詣でて眺む那智の杜
- ・最北の地に立ち夏の空仰ぐ
- ・よく似合ふ京の紅葉と人力車
- ・峰々も紅葉明かりの立石寺
- ・トンネルをくぐりし村の柿簾

『孫のホームステイ』

大東支部 藤田美知子

コロナ禍のなか、松阪市飯高に住む孫の様子を見に出かけた。孫は小6の男子。卒業までの半年間、息子家族の知人宅にホームステイしている。

嫁さんからこの4月頃、孫が自然豊かな飯高で思いっきり遊んで暮らすと言い出していると。

コロナ対策の一つとして、桑名市内より悪くないかも位に私たちは軽く思っていたのですが。

話は着々と進み、7～8月は飯高のお試し生活を母子で体験した。孫の望み通り、川で飛び込み等存分に遊んだとの事であった。9月から転校。

訪問日は平日にし、孫の帰宅時間を加味して、お伊勢参りと飯高の町巡りをした。小一時間かけての珍布峠の散策を楽しんだ。孫が泳いだ処はこの辺りかしら等話ながら、澄んだ水の流れる川もたどった。初対面のホームステイ先のご家族が揃って出迎えてくれる。桑名で息子たちと活動していたが、ご主人が故郷で子育てしたいと転居したと言う。ご夫婦は、孫を含め異年齢の5人の子を育ててくれている。終始にこにこしている孫の姿に家族の温かさを感じ、ありがたくて頭の下がる思いでした。来春の孫の成長振りが楽しみです。

昔懐かしい藁葺屋根をスミで描きました。
子どもの頃を思い出しました。



コーヒーカップをコーヒーの粉で描きました。
かすかにコーヒーのにおいがしました。



静岡保護観察所長感謝状

をいただきました！！

- 👑 熊切 信子さん (大東支部)
- 👑 山崎 富美子さん (掛川支部)
- 👑 林 知余さん (大須賀支部)

おめでとうございます。



- 編集後記 -

大東支部 大橋

“更女だより” 100号ということでみなさんに無理なお願いで御迷惑をおかけしました。

いまだに猛威を振るっているこのコロナウイルス。人類は又新たな試練と戦っています。困惑、不快、不安など何という世の中でしょう。健康第一に安心安全な生活でありたいですね。当然が当然でなくなっています。いつまで続くんでしょうか。